

みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.136号 2024年11月6日発行

10月19日に病院祭開催

病院祭も14回を迎え、今年度は過去最大の企画数となりました。当日は、雨の心配もありましたが、大きな影響はなく、受付した来場者と企画に参加いただいた方々を含めると、1500名程度の地域の方々に当院の取り組みや仕事を知っていただける良い機会となりました。



私は今回初めてグリーンボランティアさんのブースを担当させて頂きましたが、当日は多くのグリーンボランティアの皆さんが参加され、準備・接客・販売・片付けを素晴らしいチームワークで対応される姿に感激いたしました。ドライフラワーやリサイクル品などさまざまな販売、ハーブティーの提供など多くの来場者が立ち寄られ、好評だったと伺っております。これからも、皆さまの

温かい活動で当院を支えて頂けますよう、よろしくお願いいたします。[村越]



今年度の病院祭を担当された外来看護師長村越里枝子さんに御寄稿いただきました。初の試みとして秋のバザー1回目を病院祭に合わせて開催しましたが、いろいろな方のご協力で、無事に大きな成果を挙げることができました。今回の反省点を踏まえて、次につなげていけたらと思っています。[牧野]

***** お知らせ：今後の予定 *****

- ◎ 今年の活動もあと1か月ほどになりました。最終日に懇親会を開きます。
12月4日(水) 9:30~11:30 今年の振り返り&来年度の活動について
場所：研修棟3階 3・4会議室
(東庭出入り口を入り、右手奥のエレベーターで3階へ)
- ◎ 1月~3月まで以下の日程で学習会を予定しています。
詳しくは改めてお知らせしますが、皆様の予定表に入れておいてください。
1月22日(水) 10:30~12:30 鎌田實先生のお話があります
2月12日(水) 9:30~11:30 学習会
3月12日(水) 10:00~12:00 萩尾エリ子先生のお話があります

藍の生葉染めワークショップ

9月4日、東ガーデンで種から育てたタデアイの葉を使って、初めて藍の生葉染め体験をしました。材料として使うタデアイの葉は、花の咲く直前の頃が良いとのことで収穫し、すぐに葉を摘み、水と一緒にミキサーにかけ、絞ったその緑の汁にシルクのスカーフ布を「15分待つて」と言いながらひらひらと漬けました。そして、空気にさらして干してゆくとだんだん布が緑色からブルーの色に変化。皆、驚きと嬉しさに喜びの声があがりました。空気に触れると酸化して青く発色するそうです。最後に、一度乾いた布を色止め用の液につけ、また乾かしてできあがり。参加した方々それぞれのスカーフが美しい色に仕上がりに、楽しいワークショップのひとつとなりました。 [刈谷]



※アイの生葉染めは濃い藍色ではなくブルーに仕上がります。動物繊維の方が良く染まるのでシルクを使用しました。

コラム No.28

子規と庭

俳句革新を目指した子規は難病・脊椎カリエスのため自由な外出が難しくなった頃、自宅の庭の草花に本格的に関心を寄せるようになる。子規庵の庭には様々な植物が植えられ、四季折々の草花は子規の目を楽しませた。病床の子規の視界に合せるように、ヘチマ棚も設けられた庭は、歩行の自由を失っていた子規にとって、小さな宇宙だった。

庭の草木の成長が、子規の文学と病の日々を支えていた。死期の迫った明治35年頃、子規は麻痺剤の助けを借りながら、草花を見つめ、句を詠み、写生画を描き上げることで、最後の命をつないでいった。

「花は我が世界にして、草花は我が命なり」という言葉を残した正岡子規。

子規はまた「…庭園を持つのだったらこのような作りにしたい」という理想の計画案を示し、その中に「…秋の野草を植え皆野性の有様にて乱れたるを最上とする…」とある。そして文章の最後に一句

ごてごてと草花植ゑし小庭かな 子規
病院の庭を眺めて是非、一句！



[加藤 (津)]